

大山崎ふるさと
ガイドの会だより



稀な観音寺雪景色

第152号

発行日 平成31年1月1日
発行元 大山崎ふるさとガイドの会(OFG)
発行責任者 藤原琴二
連絡先 大山崎町歴史資料館内
TEL 075 (952) 6288, FAX 075 (952) 6289
URL <http://www.kyoto-ofg.org/>

新年のご挨拶 会長 藤原琴二

新年明けましておめでとうございます。皆様方には新たな思いの良き新春をスタートされたと思います。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

この新春、昨今の様々な出来事に歳の所為もありましようか、特に子供の頃の思い出が湧くものでした。今の世相を対照とした昔は良かったなあ～？そして未来4～50年先は一体どの様な世の中になっているのかと思いを馳せるものです。

それは、中学校位まで、元旦は登校日でした。君が代とか、一月一日の唱歌を歌い校長先生のお言葉を聴くというものです。(この登校は何時頃までであったのか?)子供の頃は歌詞の意味など良く分かっておらず紅白の饅頭の出ることもあり楽しいもの!往時の校長先生は年頭に善く偉人の名言の解説とか干支に因むお話でした。例えば伝教大師の「**径寸の玉は国宝に非ず、一隅を照らすもの、これ則ち国宝なり**」とか干支では今年の干支に巡り合わせの「猪突猛進」とかが印象に残っています。元旦の登校、新年の思いと意識付を明確にする良いものであったと思います。一方遊びと言えばコマ回し、凧揚げ(自作)、かるた取り等々と現在の子供には通用しない?ものです。言わば**最近に感じられない?素朴なものでした。**

さて**現在の子供達は、**何処でもゲーム～ゲーム!スマホでしょうか。但し校外学習のガイドで児童、生徒達との交流は楽しいものです。その子供達、熟年で子供の頃はよく電子ゲームをやったな～とか学校では

“いじめ”問題で大変だった～でしょうか?全く多様化の世の中、年の初として想像するのも楽しいものです。AI、iPS、又**宇宙旅行は?**(月旅行券の完売)思うだけでわくわくするものがあります。そして我々の関わる**ガイドの形態や OFG は如何な**ものでしょう。存続?或いは形態は変わっても立派に活動でしょうか?余り先のことを思案しても甲斐なく、近い将来の望ましい状態を先取りして少しでも、お客さま、我々一人一人にとって遣り甲斐・便利・・・楽しい事を想定し出来ることを地道に遣っていくことが肝要でしょう。昨年はそのような未来志向とする特別委員会(2件)への思いがありました。

例えば電子機器ソフト導入によるガイドの(受付や案内)合理化や質の向上です。然しながら時、熟せずでしょうか、これとしたことは出来ず来年度以降に委ねることとなっています。

未来へ「**創造**」、「**挑戦**」、「**継続は力なり**」を実践していきたいものです。この新春に接し皆様のご健勝、ご多幸を心よりお祈り申し上げ、**年頭のご挨拶に代えさせていただきます。**



最近再開している
故郷(官兵衛の里)の
白山(510m)への**新春登山**、
ふるさとの山に向かひて
言うことなし・・・
の心境です。

11月10日～12月31日までの活動実績

1. 主なガイド
- ・11月10日(土) KDDI 78名
 - ・11月11日(日) ダイヘンOB会 16名
 - ・11月23日(金) 袖の会 8名
 - ・11月30日(金) 洛和ヴィラ大山崎・出前ガイド 15名
 - ・12月2日(日) 健康ダーツの会・出前ガイド 18名
 - ・12月2日(日) 花ノ木地区住民自治協議会 49名
2. 会の行事など
- ・「あちこち学習山歩」
12月17日(月) 長岡京市の史跡を訪ねる 14名
 - ・「洛中ウォーキング2018秋」
11月12日(月) 東福寺～祇園四条～岩倉三縁寺 20名

活動予定

- 主なガイド、行事予定
- ・1月7日(月) FMおとくに・出前ガイド 全班
 - ・1月16日(水) 大阪府高齢者大学校 3班
 - ・1月18日(金) 京都SKYセンター 3班
 - ・1月22日(火) 第二大山崎小学校 全班
 - ・1月23日(水) 新春のつどい 全班
 - ・1月30日(水) お父さんのハイキング 1班
 - ・1月31日(木) 大阪高齢者大学校 1班
 - ・2月4日(月) FMおとくに・出前ガイド 全班
 - ・2月20日(水) やはた観光ガイド協会 4班
 - ・3月2日(土) 写経と散策 全班
 - ・3月30日(土) 水辺の散策 全班
 - ☆ 「あちこち学習山歩」
・2月25日(月) 太閤道(予定)
 - ・3月25日(月) お花見(予定)

11～12月ガイド実績

	一般ガイド		歴史資料館		おおやまざき・なび		合計	
11～12月	15件	395人	186件	517人	38件	83人	240件	995人
平成30年度累計	86件	2,414人	830件	2,271人	136件	347人	1,052件	5,032人

視察研修旅行

「岡山・吉備路・備中高松城址方面」に参加して



今年の旅行は、秀吉の「備中高松城水攻め」について勉強すべく、OFG会員と養成講座受講者合わせて34名で、岡山へバスで出かけた。

車中、ビデオ「軍師官兵衛・高松城水攻め」と「英雄たちの選択・秀吉中国大返し」などを見ながらしっかり事前学習をした。

最初の、吉備津神社は、本殿が国宝、入母屋造の屋根を2つ並べた全国的にもここにしかないという壮大な建築にびっくり。御釜殿など重要文化財も多く、総延長398メートルの回廊などスケールの大きな神社だった。

お昼からは、秀吉の高松城水攻めについて、現地ガイドから、城址公園資料館でビデオを見ながら概略の説明を受け、続いて、城跡、城主清水宗治の首塚や胴

塚、自刃の地、堤防跡の蛙ケ鼻などを案内していただいた。

一見すると、のどかな田園風景に見えるが、この場所は地形的に水が溜りやすい場所にあるため、最近でもたびたび水害に悩まされてきたところだそうだ。したがって、水攻めの堤防は、従来 言われていた3キロの長さではなく、300メートルほどであったという説が有力視されているとのこと。それだと、12日間程度で完成することも可能だそうだ。

我々は、地元として、「中国大返し」「山崎の合戦」と密接に関係する「水攻め」について、大いに勉強になったが、そうでない人には、あまり興味をそそるような出来事ではなかったかもしれないと感じた。



(2班 石橋 克己 記)

洛中ウォーキング

維新150年の散策



秋の洛中ウォーキングは、木村さんのご案内で今年維新150年に因んで当時の史跡を歩き、登場人物などの話を聞きながら参加者20名と散策した。

まず、東福寺にある退耕庵は長州藩が本陣を構えて鳥羽伏見の戦いに臨み、戦死した藩士が埋葬された南丘の墓地へ行った。次に、京都中心地の三條京阪近くの池田屋へ移動（今は居酒屋で流行っている）、元治元年6月に新撰組近藤勇らがここに潜伏していた尊王攘夷の宮部鼎蔵らを襲撃した。落命した志士達は三條大橋東の三縁寺に葬られた。この寺は岩倉に移り、岩倉三縁寺まで足を延ばし、本堂の裏にある池田屋事件の墓と碑を見て回った。

最後に、幕末から明治期の政治家で公家の岩倉具視の幽棲地を訪れた。幕末に隠棲した場所で、茅葺の建家の中で討幕運動の中心となった活動家らと密会を重ねた。大河ドラマ西郷どんでは笑福亭鶴瓶が演じているが、岩倉具視は奇抜な性格であったようだ。

司馬遼太郎がエッセーに書き残した京、江戸、萩などの各地の維新こぼれ話もまた面白い。

(3班 野尻 祐三 記)

行基の足跡を訪ねて-大山崎から堺・大野寺跡へ



行基と山崎院の二回に渡る歴史講演会を受けて現地見学会が11月23日(祝)、福島館長の案内で実施されました。

参加者18名は、自己紹介の後、山崎院跡と云われる石碑前で出土した瓦、他遺跡から想像できるいろんな説明を受けました。仁王門、一夜の塔の屋根瓦、宝積寺と閻魔堂の中で行基が関わったであろうお話や説明を聞いた後、資料館で企画展行基の人物や土塔について学び現地へ出発しました。

電車を乗り換えながら堺深井駅へ到着。町名も土塔町である史跡『土塔』を講演戴いた堺市文化財課の近藤康司先生に身近に詳しく案内と説明を頂きました。

写真で見るよりも偉容で圧倒されるくらい立派で使用瓦の枚数の多さも含め同時にこの様な大工事が正確に建造された技術があったことに驚きと感銘を受け、同時に皆さんが現地に来てよかったと喜んでおられました。

(1班 奥西 正明 記)

第9回 ふるさと案内人養成講座閉講



6月26日にスタートした、第9回大山崎ふるさと案内人養成講座も12月18日、教育長、生涯学習課長のご臨席を賜り、閉講式を行いました。

受講者25名の方が修了証書を受けられました。

各専門分野の方々の豊富な講義内容と共に、「出前ガイド」「資料館ガイド」「現地学習」「聴竹居・待庵見学」「懇談会」など、会員が直接受講者と交流する機会を増やし、各班あげて取り組むことができました。今回は8月の熱中症の心配や9月の台風の甚大な被害で講座も延期され、11月に講座が集中して大変だったと思います。多くの方にふるさとガイドになって大山崎の魅力を伝えて頂きたいと思います。

(養成講座実行委員会 守 きみよ 記)

OFG主催歴史講演会

明智光秀と織田信長

今回は大山崎ふるさとガイドの会が主催する講演会で、来場者数を心配していました。しかし会場は追加の椅子が置けない満杯状況になり、講師自身が驚かれるほどの多数の聴講者の中で講演が始まりました。

講演題目が皆様の注目される所であり、講師がこの方面にふさわしい方であったからの結果だと思います。

講演は織田家の家臣団の気風から始まります。武将の裁量にまかされる所が多いが、成果は厳しく求められました。次いで光秀の出自と活躍が紹介されます。

義昭と出会う前の人生は不明な事が多いですが、信長と組んでからの活躍、信頼は素晴らしく、朝廷や将軍や武将同士の付き合いも好評でした。丹波攻略中に、信長との違和感を感じます。近畿が平定され、京に近い近江と丹波の一体統治が進むと、両者が今後の事を考える時警戒心が生じましたが、表に出さず行動します。そしてついに本能寺に至る過程が15の資料で明らかにされる熱演の講義でした。(4班 池田 弘 記)

OFGだより次号は平成31年3月10日に発行します。